

研究紀要・年報

# 縄文の森から

From JOMON NO MORI

第3号

《研究ノート》

土器胎土の鋳物を求めて  
—土器製作推定地のための基礎研究—  
第三調査係

指宿式土器の色調から見た交流の断片  
黒川 忠広

成川群集墓の全体像  
繁昌 正幸

鹿児島県における中世墓研究の現状と課題  
—発掘調査で発見された墓を中心として—  
上床 真

《資料紹介》

脇本窯跡・大曲窯跡出土資料  
関 明恵

《資料集成》

鹿児島県出土土師器の法量データベース  
第一調査係

鹿児島県内の考古学的調査における年代測定資料集成  
南の縄文調査室

《平成15年度 年報》

鹿児島県立埋蔵文化財センター  
2005. 3

# 『縄文の森から』第3号 目次

---

---

## 《研究ノート》

土器胎土の鉱物を求めて -土器製作推定地のための基礎研究-

第三調査係…………… 1

指宿式土器の色調から見た交流の断片

黒川忠広…………… 17

成川群集墓の全体像

繁昌正幸…………… 29

鹿児島県における中世墓研究の現状と課題 -発掘調査で発見された墓を中心として-

上床真…………… 41

## 《資料紹介》

脇本窯跡・大曲窯跡出土資料

関明恵…………… 55

## 《資料集成》

鹿児島県出土土師器の法量データベース

第一調査係…………… 65

鹿児島県内の考古学的調査における年代測定資料集成

南の縄文調査室…………… 79

《平成15年度 年報》…………… 89

---

---

# 研究紀要

## 脇本窯跡・大曲窯跡出土資料

関 明 恵

Relics Excavated from Wakimoto and Omagari Kiln

Seki Akie

### 1 はじめに

近年、鹿児島県下における近世磁器窯の調査・研究が進み、寛文7（1667）年に開窯され、磁器生産を試みた山元窯（加治木町）をはじめ、弥勒窯・日木山窯（加治木町）、重富皿山窯（始良町）、平佐大窯・新窯（川内市）など、18世紀後半から19世紀にかけての磁器窯の様相が解明されつつある。

今回筆者は、阿久根市教育委員会の御協力を得、昭和47（1972）年に池水寛治氏等により発掘調査された脇本窯の出土遺物と、水道工事により採集された大曲窯の遺物を実見する機会を得た。これらの遺物は薩摩の磁器生産の様相を知る上で貴重な資料である。そこで本稿では、脇本窯跡の出土資料の再検討と大曲窯跡出土資料の報告を行い、それらの特徴をまとめてみたい。

### 2 脇本窯跡

阿久根市脇本橋之浦字皿山 347 に所在する。『阿久根市誌』によると、昭和8（1933）年に橋之浦一大漣間の県道工事によって窯の中央部が分断され、消滅したものと思われていた。しかし、阿久根市教育委員会が同窯の発掘調査を計画し、昭和47（1972）年3月に、同市の文化財審議委員であった池水寛治氏等によって発掘調査が行われている。

この窯については、安永年間（1772－1780）に川内平佐郷の郷士、今井儀右衛門が出水郡脇本に窯を創設して磁器の生産を志したが、資力が続かず失敗し、その後、天明6（1786）年平佐の領主、北郷家の家臣伊地知周右衛門の努力で北郷家の御用窯として再興、平佐皿山窯を創設した<sup>1)</sup>とある。平佐皿山の創設時期についても諸説あり、脇本皿山の稼働時期については確定できていない。

#### （1）製品

池水氏等による調査においては、物原が未検出のため、製品の出土量は極めて少ない。このため多くが小片であり、図化可能な8点を掲載した。

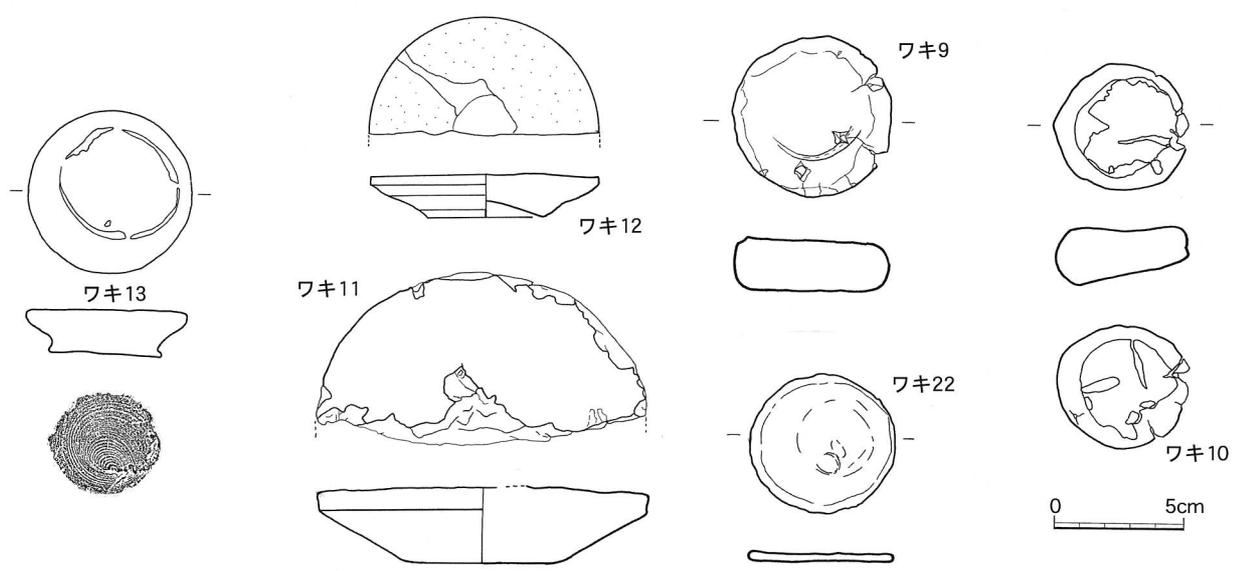
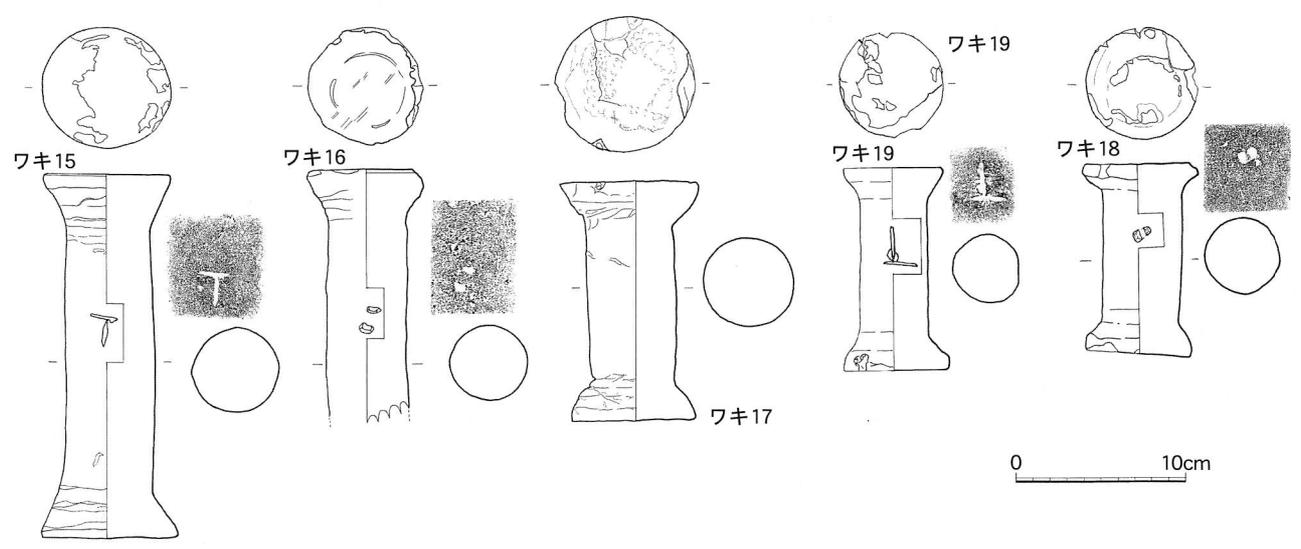
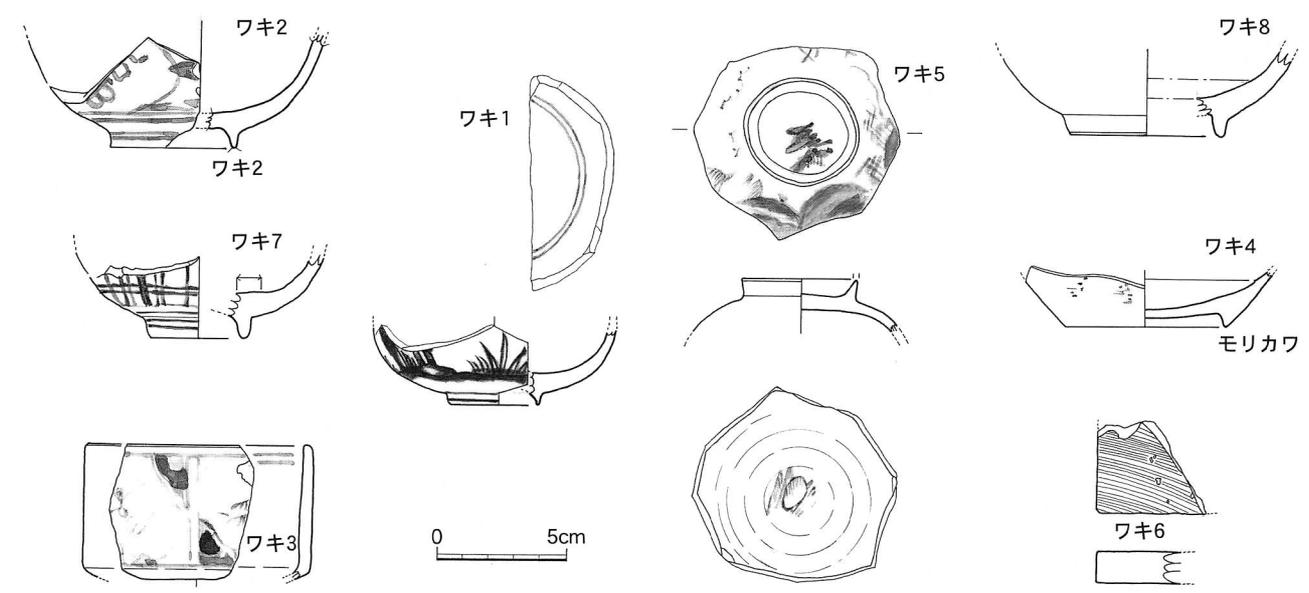
1～5は染付磁器である。1は内面に灰がかぶり、3・4は焼成不良であるため本窯の製品と考えられるが、そ

の他の資料については資料の特徴から本窯以外の可能性も否定できない。これらは、出土時の状況は不明であるが、一括の出土品として取り扱われていることから、一律に同伴の資料として提示しておきたい。

1は区画に花文の描かれた碗である。2は外面格子文の染付碗である。やや灰色味を帯びた透明釉がかかり、見込みは蛇ノ目釉剥ぎされている。3は外面に草文が描かれた碗である。焼成不良のため呉須の発色が悪く透明釉も溶けていない。『紀要出水』にも掲載されているが、今回実測図を修正して掲載した。5は外面に山水文が描かれた碗蓋である。つまみ部分がやや変形しているが、焼成は良好である。6はやや大型の碗で、内外面に貫入が看取され、内面には、蛇ノ目釉剥ぎが施される。7は外面のみ透明釉が施釉される。内面は露胎する袋物と思われる。8は用途不明の資料で、下面にはヘラ状工具による細かい刷毛目が残る。



第1図 遺跡の位置図



第2図 脇本窯跡出土遺物

(2) 窯道具

9～13はトチンである。鈍い褐色を呈し、白色粒子を多く含む陶製で、素焼きである。大(9・10)・中(11)・小(12・13)の3種類に分類でき、11を除き胴部には「T・()・:・^」の刻印が看取される。また10の上面にはセンバイが熔着しており、その上には製品の畳付きの痕跡が輪状に残っている。その他の資料についても、上面にセンバイを置いたと思われる白色の痕跡が見られる。

14～18はハマである。14～16は逆台形のもので、14・15は白色の磁製、16は茶褐色を呈する陶製である。14の下面は糸切りされており、上面には製品の畳付の痕跡が残る。16は胎土に白色粒子を含む。17・18は円板形のハマで、胎土に白色粒子を含む陶製で、鈍い褐色を呈する。19は白色磁製のセンバイである。

3 大曲窯

阿久根市高松大曲に所在し、「阿久根皿山」とも称される。この窯については脇本窯と同時期に稼働していたもう一つの窯であるという伝承が残るのみで、郷土誌等にも掲載されておらず、その存在は不明であった。昭和31(1956)年、森高盛氏の発掘によりその存在が明らかにされ、同年8月8日付けの南日本新聞に『阿久根皿山を発見』という見出しで掲載された。また、昭和51(1976)年には、阿久根市立図書館長浜之上訓衛郎氏等により、再度その位置が確認されている。窯の創設については、天草の上田家文書『上田宜珍日記』の文化15(1818)年6月26日の記録に、「近来、皿山仕立て候につき」と

いう内容が記録されている<sup>2)</sup>ことから、この時期と考えられる。

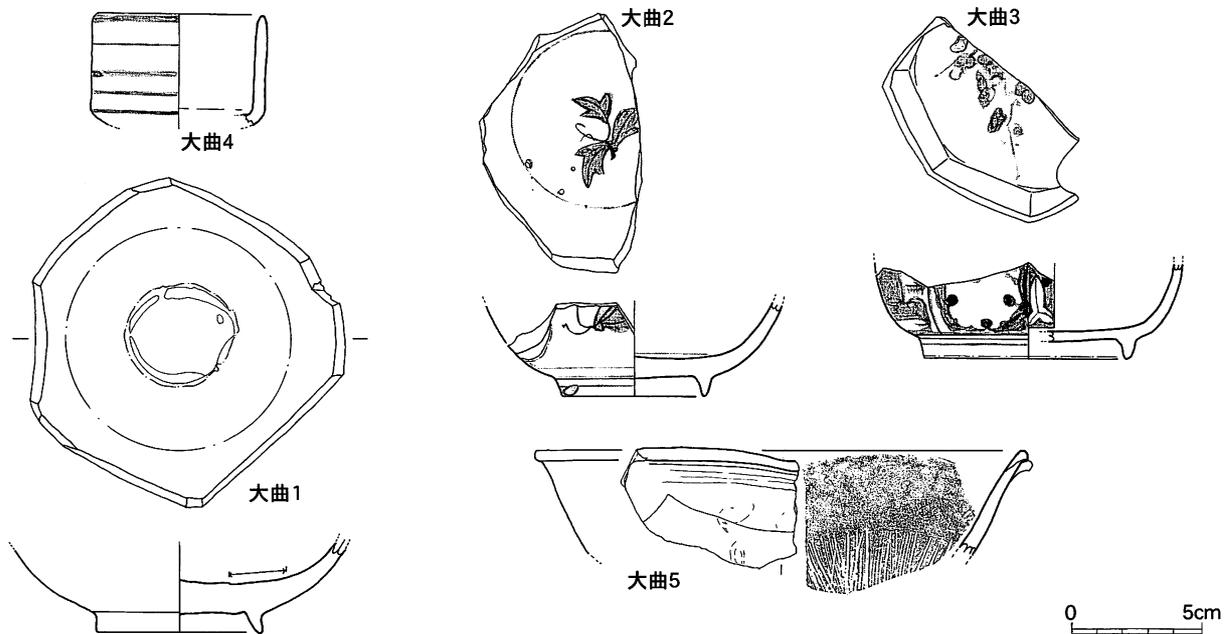
(1) 製品

水道工事中に8点の資料が採集されている。そのうち1点は陶製の土瓶の把手部で、苗代川焼と思われるが、他は焼け歪みや灰かぶり、窯傷等がみられる磁器であるため、本窯の製品と考えられる。図化可能な5点を掲載した。

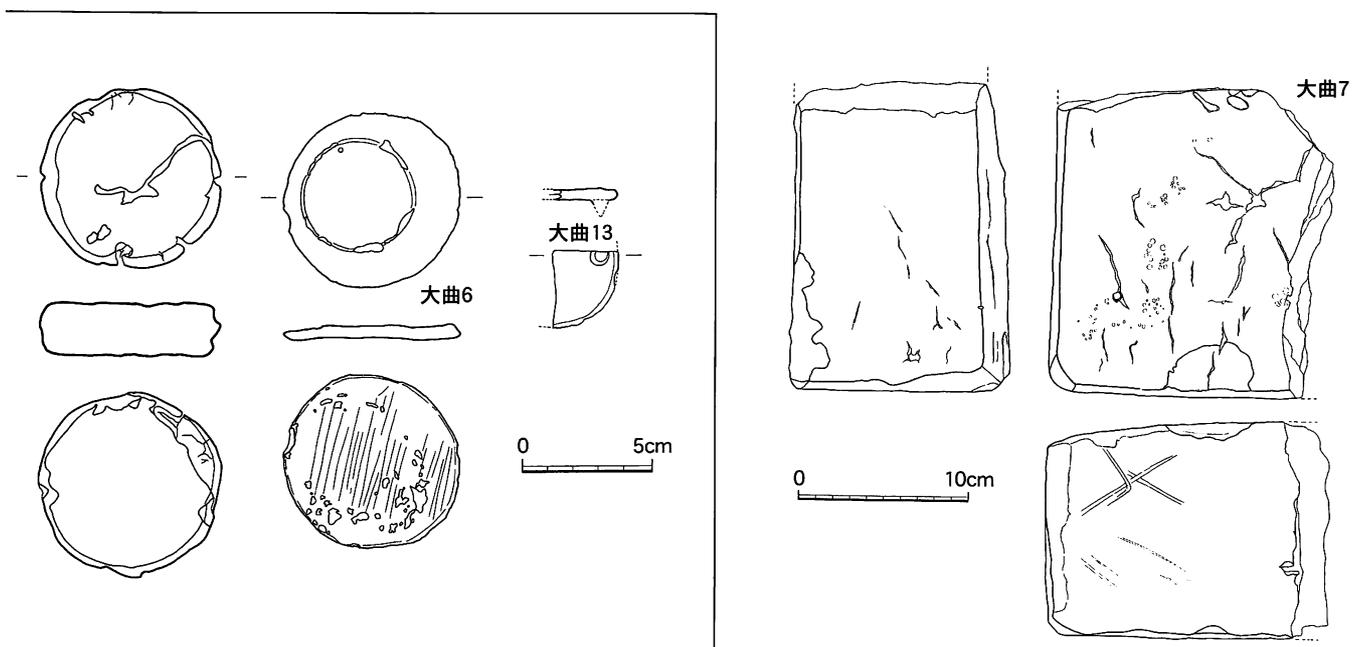
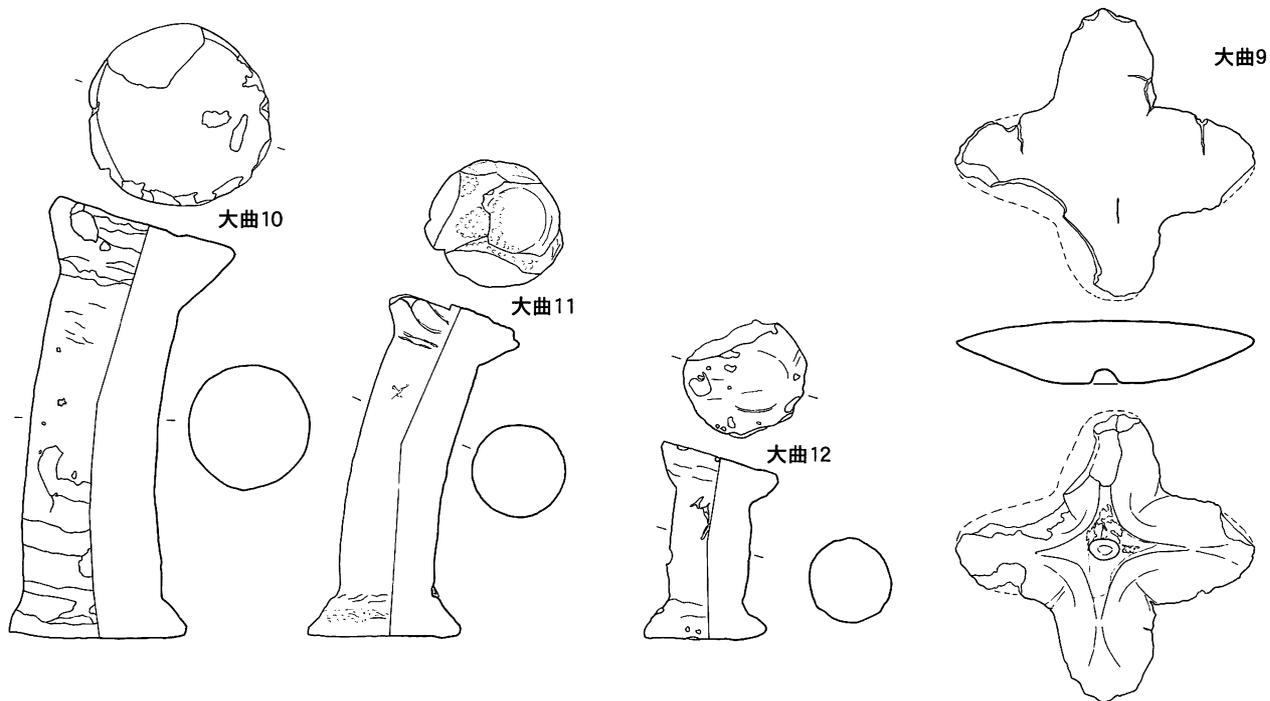
20は筒形の染付碗である。白色の緻密な胎土に透明釉が掛かる。外面には横線文が描かれる。21～23は鉢で、21・23は染付、23は白磁である。いずれも白色の緻密な胎土で、透明釉がかかる。20・21は焼成良好で、透明度も高く光沢のある仕上がりであるが、22は素地が隠れるほど厚く施釉され、やや黄緑がかった発色を呈する。また、21は見込みに草文、外面は欠損していて不明であるが宝文の一部と思われる文様が描かれている。内外面とも体部に貫入が看取される。22は体部が八角形の鉢である。見込みには草花文が描かれ、外面は2面ずつ4つに区画し、その中に文様を描いている。22は底部がやや厚手で、内底面に巾約2cmほどの幅広の蛇ノ目釉剥ぎが施される。24は小型の挿鉢である。内外面とも口縁部上位のみ透明釉がかけられ、スリ目部分は露胎である。また、施釉部分には貫入が入り、外面は白濁している。

(2) 窯道具

25～27はトチンである。胎土に細かい白色粒子を多く含み、素焼きの陶製である。内面は黒褐色、外面は自然釉がかかり、暗褐色を呈する。焼成時の高熱のため、焼け歪みが見られる。大・中・小の3種に分類できる。25は大形のもので、上面と下面の両面にセンバイの痕跡が



第3図 大曲窯跡出土遺物(1)



第4図 大曲窯跡出土遺物(2)

白く残る。26は中形のもので、上面にはセンベイの一部が熔着し、下面には白色の痕跡が見られる。27は小形のもので、これも両面にセンベイの痕跡が看取される。28は円板形のハマである。陶製で、胎土には細かい白色粒子を多く含み、黄褐色を呈する。29はセンベイで、磁製である。両面に製品の畳付の痕跡が輪状に残り、片面にはセンベイ製作時に、ヘラ状工具でなでたと思われる痕跡も看取される。30は脚付ハマと思われる。ほとんど欠損しているが、センベイに貼り付けた脚部分が僅かに観察できる。31は十字形トチンまたはタコハマと呼ばれる資料である。布を敷いた型に粘土を流し込んで作ったと

考えられ、全体に布目が残る。下面中央には巾約1.3cm、深さ約1cmのくぼみが作られ、上面は焼け歪みのため、反部がやや下方に反っている。32は窯壁である。下面はあまり火を受けておらず、赤橙色を呈するが、他の面は黒褐色で、灰が熔着している。

#### 4 まとめ

脇本窯・大曲窯の製品・窯道具について、若干ではあるが気付いた点をまとめておきたい。

##### (1) 脇本窯

製品の胎土は、目立った混入粒子もなく緻密であるが、



表1 脇本窯跡出土のトチンに印された刻印の種類別数量

	印なし	T	()	Λ	計
大形	6	11	6	2	25
中形	4	0	0	0	4
小形	16	1	12	0	29
計	26	12	18	2	58

表2 脇本窯跡出土遺物観察表

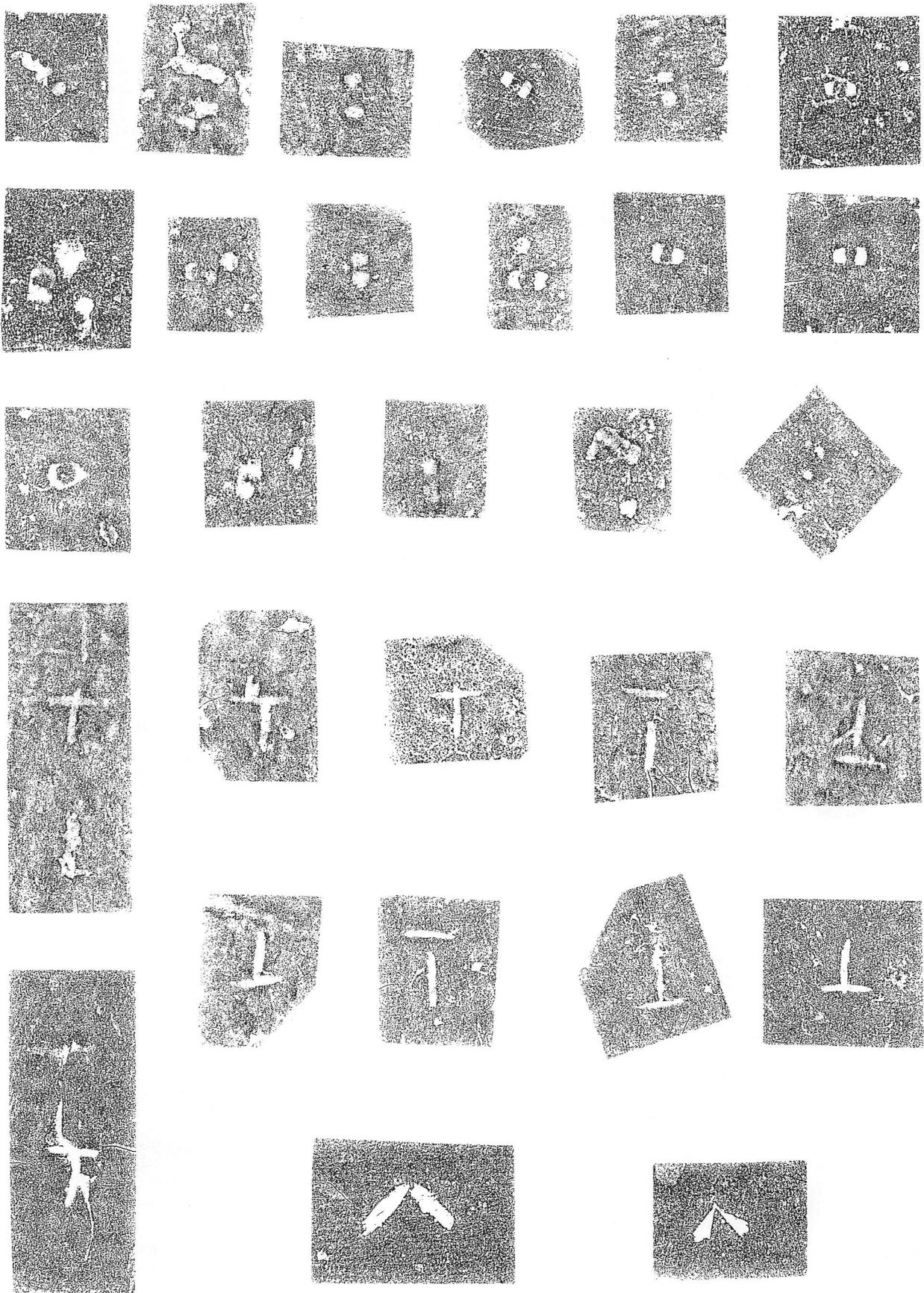
No.	種類	器種	出土地点	法量 (cm)			備考
				口径	底径	器高	
1	磁器	碗	脇本窯 B3	-	5.0	-	染付 透明釉
2	磁器	碗	脇本窯 A1	-	3.8	-	染付 透明釉
3	磁器	碗	脇本窯 A1	-	5.6	-	染付 透明釉 焼成不良
4	磁器	碗	脇本窯	8.8	-	-	染付 透明釉
5	磁器	蓋	脇本窯 A1	つまみ径5.8		-	染付 透明釉 焼成不良
6	磁器	碗	脇本窯 A1	-	6.0	-	白磁 透明釉
7	磁器	袋物	脇本窯 焚口	6.3	-	-	白磁 透明釉
8	磁器	?	脇本窯 A1	厚さ1.2		-	白磁 透明釉

No.	種類	器種	出土地点	法量 (cm)			備考
				上面径	底径・胴部径	器高・厚さ	
9	窯道具	トチン	脇本窯	7.5	5.2	21.8	陶製
10	窯道具	トチン	脇本窯	6.8	4.5	-	陶製
11	窯道具	トチン	脇本窯	-	5.3	14.2	陶製
12	窯道具	トチン	脇本窯	6.1	4.0	12.0	陶製
13	窯道具	トチン	脇本窯	6.5	4.4	11.1	陶製
14	窯道具	ハマ	脇本窯 B3	6.5	4.5	2.0	陶製
15	窯道具	ハマ	脇本窯	8.0	4.4	2.0	陶製
16	窯道具	ハマ	脇本窯	13.0	6.0	3.0	陶製
17	窯道具	ハマ	脇本窯	6.3	-	2.0	陶製
18	窯道具	ハマ	脇本窯	5.1	-	1.8	陶製
19	窯道具	センバイ	脇本窯	5.7	-	0.4	陶製

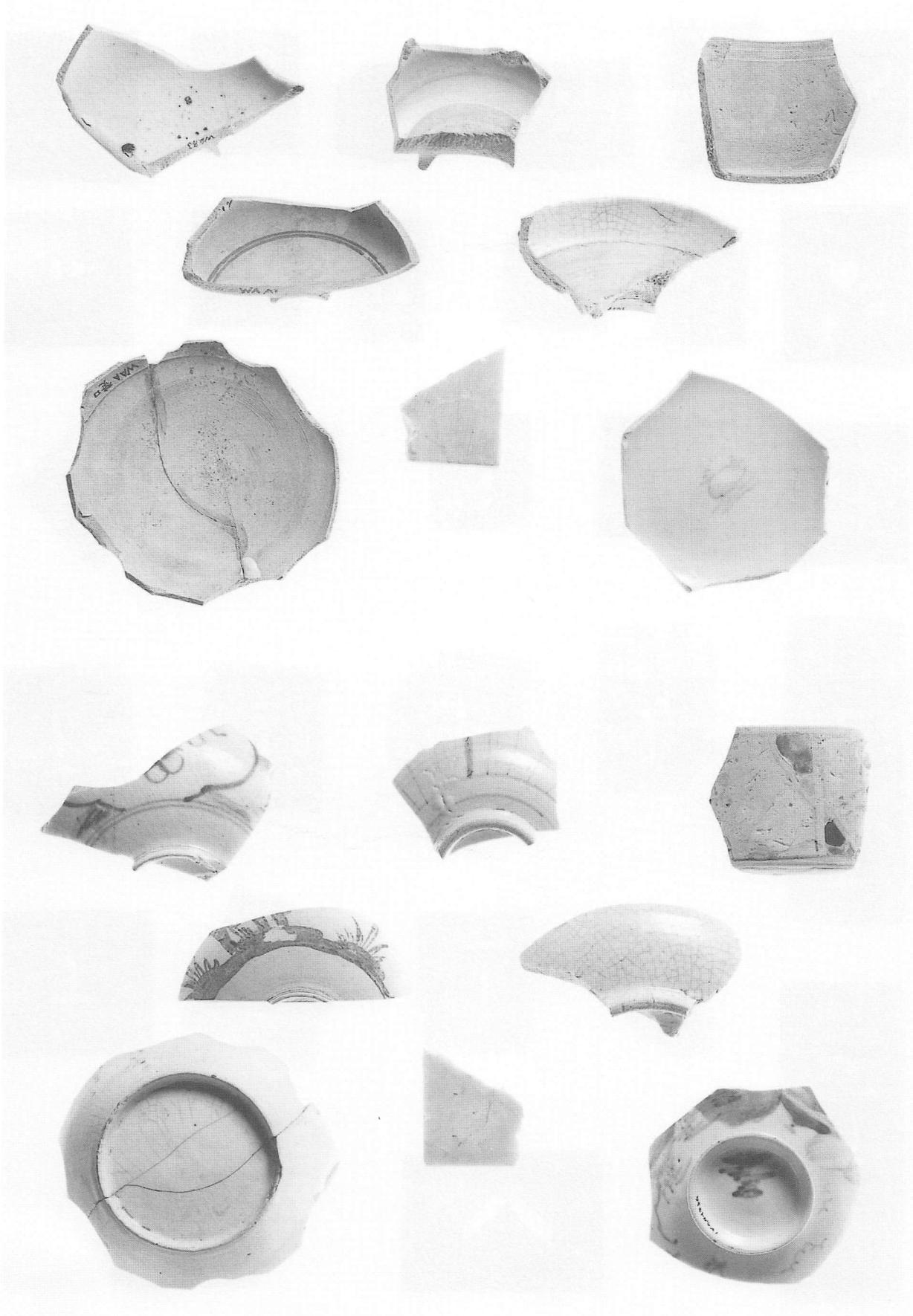
表3 大曲窯跡出土遺物観察表

No.	種類	器種	出土地点	法量 (cm)			備考
				上面径	底径・胴部径	器高・厚さ	
20	磁器	碗	大曲窯	6.4	-	-	染付 透明釉
21	磁器	鉢	大曲窯	-	5.7	-	染付 透明釉
22	磁器	鉢	大曲窯	-	8.0	-	染付 透明釉
23	磁器	鉢	大曲窯	-	6.5	-	蛇ノ目釉剥ぎ 透明釉
24	磁器	挿鉢	大曲窯	(19.4)	-	-	透明釉

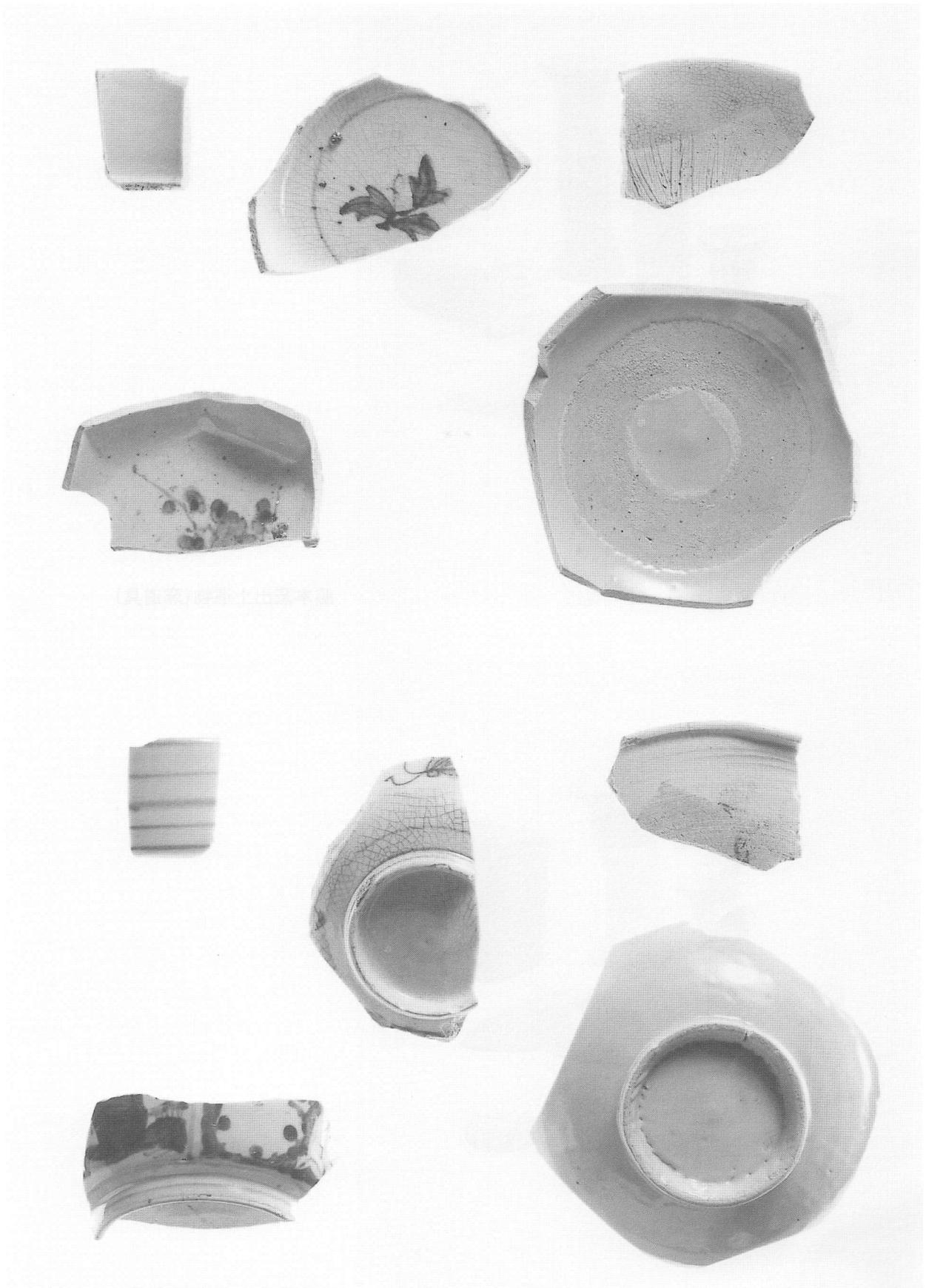
No.	種類	器種	出土地点	法量 (cm)			備考
				上面径	底径・胴部径	器高・厚さ	
26	窯道具	トチン	大曲窯	10.0	7.2	(24.7)	陶製
27	窯道具	トチン	大曲窯	7.1	5.5	(20.0)	陶製
28	窯道具	トチン	大曲窯	7.2	4.8	(11.0)	陶製
29	窯道具	ハマ	大曲窯	7.4	-	2.0	陶製
30	窯道具	センバイ	大曲窯	7.0	-	0.5	磁製
31	窯道具	脚付ハマ	大曲窯	-	-	0.4	磁製
32	窯道具	タコハマ	大曲窯	17.5	5.5	3.8	陶製
33	窯道具	窯壁	大曲窯	-	-	11.8	陶製



第5図 脇本窯跡トチンに印された刻印



脇本窯跡出土遺物



大曲窯跡出土遺物(製品)



脇本窯出土遺物(窯道具)



脇本窯出土遺物(窯道具)